

資料-4 現地調査報告

キルギス国国際幹線道路改善事業準備調査 現地調査報告



9+886Km～27+996Km 区間終点部



本調査区間 (27+996Km～75+000) 起点



28+300 付近 流路が接近 道路の法面を保護するブロック積み擁壁を設置する



28+500 付近 流路が接近 道路の法面を保護するブロック積み擁壁を設置する





29+000 付近路面状況 亀甲状のクラック 路床・路盤の支持力低下による



29+300 付近 流路が接近 道路本体が危険、道路を保護するブロック積み擁壁を設置する



29+548Km 地点の橋梁 (L=39.67m) 手前流路が接近 道路の法面を保護するブロック積み擁壁を設置する、沿道アクセスの渡り部 (メタル橋、ボックス) が狭小であることが起因している。灌漑用水のパイプが道路、流路を横断している。(写真 右)



29+981 付近の横断ボックス(上流側)



下流側 洗掘進行している状況



ボックス下流側の状況



29+981 道路線形を改良する



30+500 付近 右側用水路を付け替える



ノーカット市内 10-23km アスファルト舗



34+900 付近 2011 年の F/S ではこの 34+900~35+100 区間は、5cm のオーバーレイのみの改良となっている、現在、亀甲状のクラックが発生、路床・路盤の支持力低下が明らかであり、打ち替えが必要である



35+500 付近, 2011 年の F/S ではこの 35+400~35+650 区間は、5cm のオーバーレイのみの改良となっている、現在、亀甲状のクラックが発生、路床・路盤の支持力低下が明らかであり、打ち替えが必要である



36+200 付近, 2011 年の F/S ではこの 36+120~36+740 区間は、5cm のオーバーレイのみの改良となっている、現在、亀甲状のクラックが発生、路床・路盤の支持力低下が明らかであり、打ち替えが必要である



ノーカットタウン区間 線状のクラックが発生
 2011年のF/Sでは、ノーカットタウンの37+320~38+550区間も5cmのオーバーレイのみの改良となっている、



37+500付近の混雑状況
 中心部のロータリー交差点は、37+700

ロータリー交差点からボシュ方面



ロータリー交差点からパトケン方面

38+000付近



ノーカットタウン区間
38+200 付近



ノーカットタウン区間
39+000 付近



44km 付近 用水の利用時の状況



46+000 付近 亀甲状クラック発生





49+500 付近 亀甲状クラック発生



49+800～51+040 区間 改良済 (2012年7月契約、L=1.238Km)



51+611 呑み口 Φ 800

51+611 吐け口 Φ 800



52+115 呑み口 Φ1000

52+115 吐け口 Φ1000



53+084.63 越流時、通行不能



53+674 横断ボックス 4.00×2.50 有り、流下能力不足



53+700 山側斜面の状態、法肩崩壊（コンクリート防護壁落下）



54+500 付近 ジデの町付近 亀甲状クラック発生



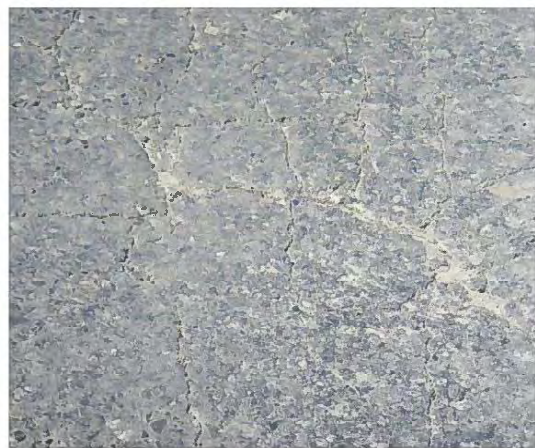
59+500 付近 クチェックの町付近 亀甲状クラック発生



63+900km 付近流路の状況



64+500 付近 亀甲状クラック発生



69+500 付近 亀甲状クラック発生



75+000 地点終点部 亀甲状クラック発生



土取場(35km+800 下流側右岸)

碎石場 (62km 付近)



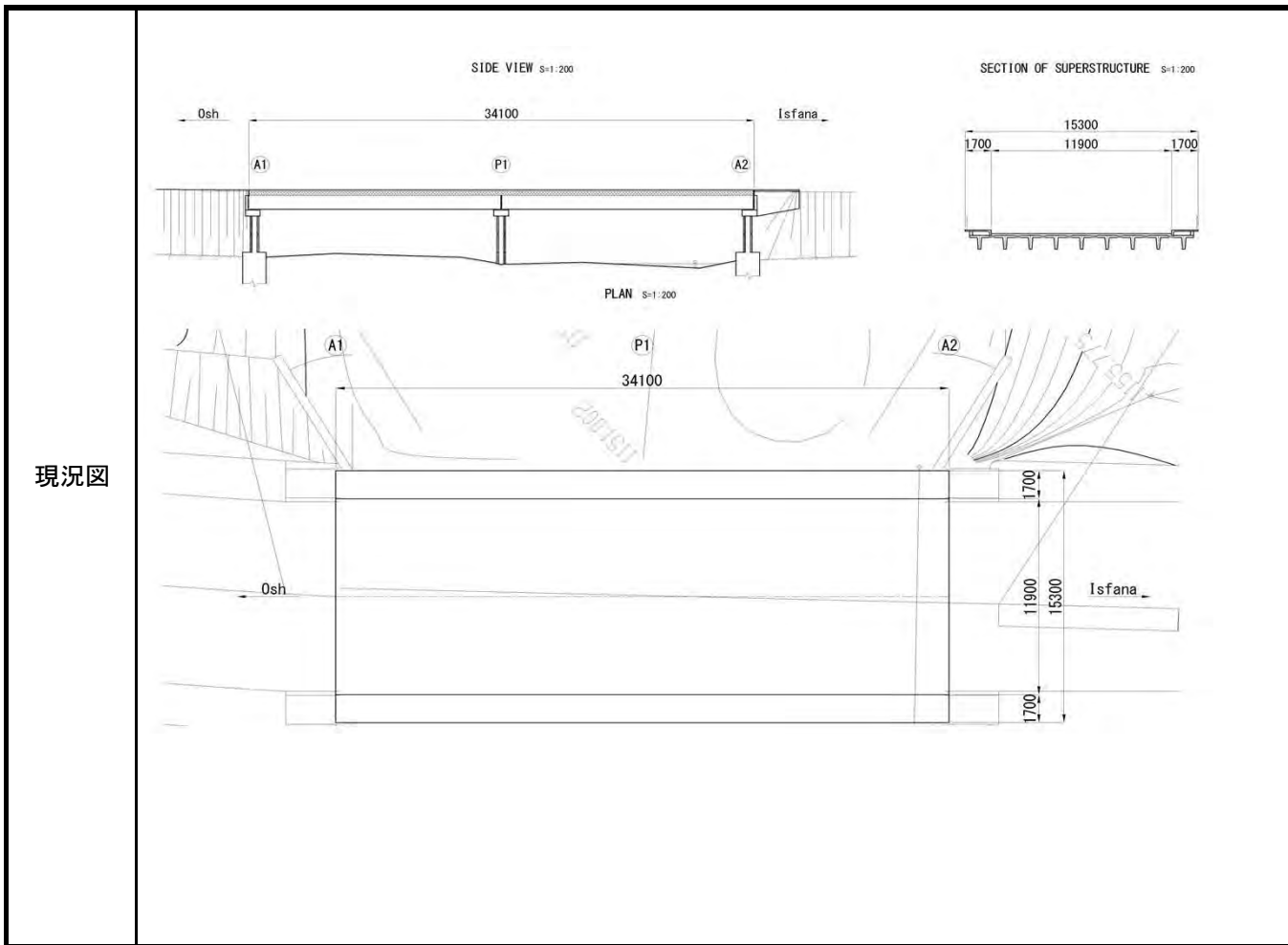
産業廃棄物候補地 (Osh 寄り, ノーカットパス付近)

①道路構造物諸元



構造物名	橋梁	路線名	Osh-Batken-Isfana道路			管轄	オシュ道路管理局
所在地		距離標	29km	+	547.92		DEP37

供用開始	1975年(築39年)	活荷重	60 ton
橋長又は支間長	34.1m(実測)	上部工形式	2径間単純RCT桁橋
下部工形式	橋脚:パイルベント式橋脚(先掘防止壁あり) 橋台:パイルベント式橋台+土止め壁		
基礎工形式	橋脚:不明 橋台:不明		
舗装種別	アスファルト舗装	橋梁建造元	USSR




幅員構成(実測)	総幅員	15.30m	地覆	歩道	車道	車道	歩道	地覆
			0.00m	1.70m	5.95m	5.95m	1.70m	0.00m






②道路構造物の現況写真と損傷状況

距離標	29km	+	547.92	路線名	Osh-Batken-Isfana道路	
	写真番号	1		径間番号	—	
	部材名称	—		部材番号	—	
	損傷発生位置	—		メモ		
	橋面					
	(IsfanaからOsh方面を望む)					
←Isfana		Osh→	写真番号	2		
		径間番号	—			
		部材名称	—			
		部材番号	—			
		損傷発生位置	—		メモ	
		側面				
	(上流側から下流側を望む)					
A2	P1	A1	写真番号	3		
			径間番号	1		
			部材名称	歩道		
			部材番号	—		
			損傷発生位置	A1橋台上流側		
			メモ			
			橋台背面の歩道が脱落している。			




②道路構造物の現況写真と損傷状況

距離標	29km + 547.92	路線名	Osh-Batken-Isfana道路
	写真番号	4	
	径間番号	2	
	部材名称	歩道	
	部材番号	—	
	損傷発生位置	A2橋台上流側	
メモ			
橋台背面の歩道が脱落している			
←Osh	Isfana→	写真番号	5
	径間番号	1,2	
	部材名称	橋面	
	部材番号	—	
	損傷発生位置	P1橋脚掛違い部	
	メモ		
掛違い部の舗装・間詰めコンクリートが脱落している			
←Osh	Isfana→	写真番号	6
	径間番号	1	
	部材名称	橋面	
	部材番号	—	
	損傷発生位置	A1橋台	
	メモ		
遊間の舗装・間詰めコンクリートが脱落している			

②道路構造物の現況写真と損傷状況

距離標	29km	+	547.92	路線名	Osh-Batken-Isfana道路		
	写真番号	7		径間番号	—		
	部材名称	歩道		部材番号	—		
	損傷発生位置	—		メモ			
	歩道の一部が脱落している 応急処置として高欄に固定している (OshからIsfana方面を望む)						
	写真番号	8		径間番号	2		
	部材名称	上部工		部材番号	—		
	損傷発生位置	主桁全体		メモ			
	間詰め部と工場製作部の境界部に 漏水による遊離石灰が生じている。 進展すると、間詰め部が抜け落ちる 端横桁・中間横桁がないため、全体 剛性の低下により大型車が通るた びに振動が生じている						
←Osh		写真番号	9		径間番号	1	
		部材名称	A1橋台		部材番号	—	
		損傷発生位置	A1橋台下流側		メモ		
		橋台背面の歩道が脱落している。					

②道路構造物の現況写真と損傷状況

距離標	29km + 547.92	路線名	Osh-Batken-Isfana道路
	写真番号	10	
	径間番号	2	
	部材名称	歩道	
	部材番号	G3桁	
	損傷発生位置	上フランジ	
メモ			
主桁に施工不良とみられる剥離・鉄筋露出が生じている			
P1橋脚			
	写真番号	11	
	径間番号	—	
	部材名称	P1橋脚	
	部材番号	—	
	損傷発生位置	上流側	
メモ			
先堀防止壁の一部が無くなっている			
橋脚柱の部材寸法が350×350と小さく耐震性に劣る			
←Osh			
	写真番号	12	
	径間番号	1	
	部材名称	A2橋台	
	部材番号	—	
	損傷発生位置	A2橋台下流側	
メモ			
橋台背面の歩道が脱落している			
Isfana→			

③河川の現況写真と損傷状況

距離標	29km	+	547.92	路線名	
	写真番号	1	径間番号	—	
	部材名称	—	部材番号	—	
	損傷発生位置	—	メモ		
	<p>橋梁中央から上流を見る。右岸側にMESが2011年5月に整備した堤防がある。計画流量は98m³/s (T=1/100)で両岸、下流も対象となっている。</p> <p>計画の川幅は100mと広く、右岸の一部区間が施工済みで、道路までの間は30mは未施工である。</p> <p>現況の橋長に比べ河川計画が広く、架橋計画時には調整が必要。</p>				
	写真番号	2	径間番号	—	
	部材名称	—	部材番号	—	
損傷発生位置	—	メモ			
	<p>橋梁中央から下流の流れを見る。左岸よりのミオ筋となっている。河床には土砂が堆積しており、川幅は約100mある。</p>				
	写真番号	3	径間番号	—	
	部材名称	—	部材番号	—	
	損傷発生位置	—	メモ		
		<p>現在のミオ筋は左岸側径間を流下している。橋脚は洗掘されていない。</p>			



写真番号	4
径間番号	—
部材名称	—
部材番号	—
損傷発生位置	—


メモ

橋梁の右岸直下流に河川が合流している。合流河川の左岸河岸は道路盛土或いは畑地や家屋敷地、右岸河岸は小高い畑地である。

28kmからの間の河道は自然河川であるため、洗掘されやすく蛇行しており、道路盛り土が大きく洗掘されている区間がある。

2009年の出水により水衝部である道路河岸が洗掘され、ガビオンで応急対策された。

③河川の現況写真と損傷状況

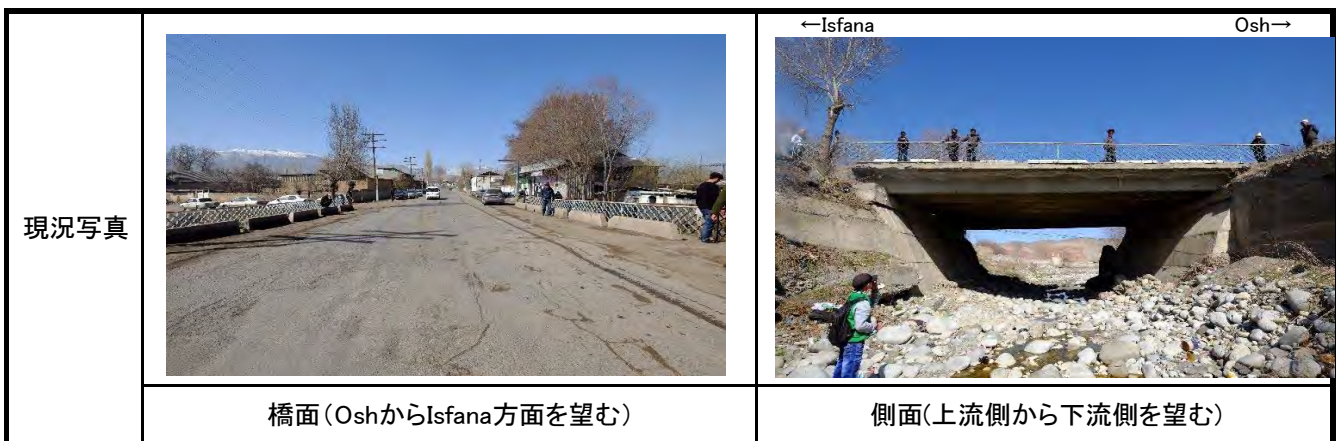
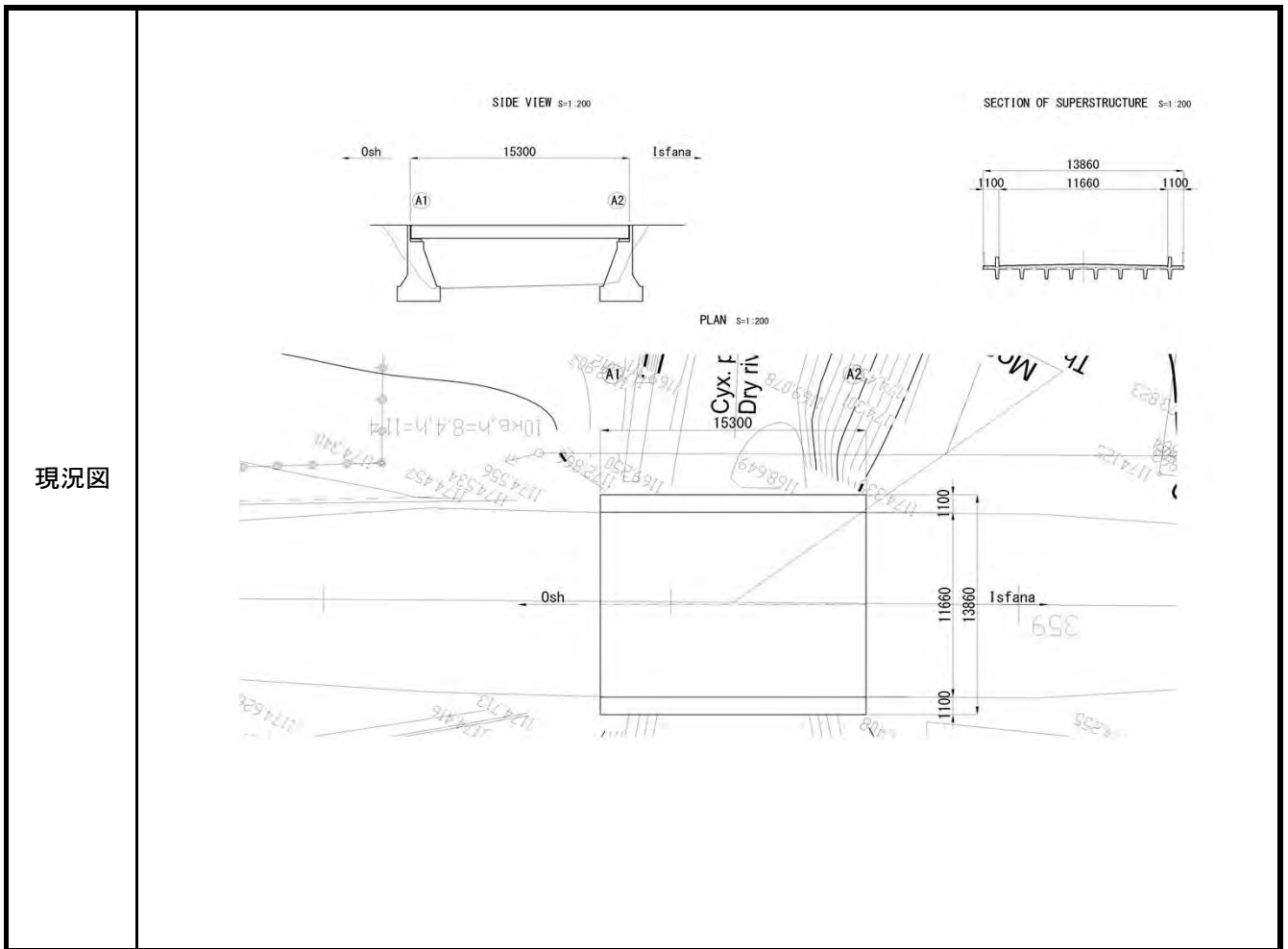
距離標	29km	+	981.00	路線名	Osh-Batken-Isfana道路
	写真番号				1
	径間番号				—
	部材名称				—
	部材番号				—
	損傷発生位置				—
メモ					
<p>下流の河岸は川幅が広くなり、直立崩壊している。洗掘は函渠からの噴流による作用と想定される。</p> <p>函渠の流下能力不足が原因であると想定され、橋梁形式も含め検討する必要がある。</p> <p>また、函渠の両側面は道路からのオーバーフローで盛り土が流失している。道路端部の崩壊原因になる。</p>					
	写真番号				2
	径間番号				—
	部材名称				—
	部材番号				—
	損傷発生位置				—
メモ					
<p>呑み口に流下物による閉塞があり、洪水は道路をオーバーフローしたとの情報がある。</p>					
	写真番号				3
	径間番号				—
	部材名称				—
	部材番号				—
	損傷発生位置				—
メモ					
<p>上流河道は洗掘などなく、幅も一定である。</p>					

①道路構造物諸元


構造物名	橋梁	路線名	Osh-Batken-Isfana道路			管轄	オシュ道路管理局
所在地		距離標	35km	+	883.08		DEP37

供用開始	1999年(築15年)	活荷重	60 ton
橋長又は支間長	15.3m(実測)	上部工形式	単純RCT桁橋
下部工形式	橋台:重力式橋台		
基礎工形式	橋台:不明		
舗装種別	アスファルト舗装	橋梁建造元	KYRGYZ




幅員構成(実測)	総幅員	13.86m	地覆	歩道	車道	車道	歩道	地覆
			0.00m	1.10m	5.83m	5.83m	1.10m	0.00m






②道路構造物の現況写真と損傷状況

距離標	35km +	883.08	路線名	Osh-Batken-Isfana道路						
	写真番号	1	径間番号	—	部材名称	—	部材番号	—	損傷発生位置	—
	メモ									
	橋面 (OshからIsfana方面を望む)									
	←Osh									
	Isfana→									
										
A1										A2
										
写真番号	3									
径間番号	1									
部材名称	舗装・間詰めコン									
部材番号	—									
損傷発生位置	間詰め部									
メモ										
間詰めコンクリートが脱落している										



②道路構造物の現況写真と損傷状況

距離標	35km +	883.08	路線名	Osh-Batken-Isfana道路
	写真番号	4	径間番号	1
	部材名称	舗装・間詰めコン	部材番号	—
	損傷発生位置	間詰め部	メモ	
	写真番号3を桁下から望む			
	←Osh			
	写真番号	5	径間番号	1
	部材名称	桁下	部材番号	—
	損傷発生位置	—	メモ	
	水道管添架有(G2~G3)			
	Isfana→			
	写真番号	6	径間番号	1
	部材名称	上部工	部材番号	—
	損傷発生位置	主桁全体	メモ	
	間詰め部からの漏水による遊離石灰が生じている。進展すると、間詰め部が抜け落ちる。 端横桁・中間横桁がないため、全体剛性の低下により大型車が通るたびに振動が生じている。			
	←Osh			

②道路構造物の現況写真と損傷状況

距離標	35km + 883.08	路線名	Osh-Batken-Isfana道路	
	写真番号	7		
	径間番号	1		
	部材名称	主桁		
	部材番号	G4桁		
	損傷発生位置	ウェブ側面		
メモ			剥離・鉄筋露出が生じている	
	写真番号	8		
	径間番号	1		
	部材名称	主桁		
	部材番号	G4桁		
	損傷発生位置	ウェブ下面		
メモ			ウェブ下面に豆板が生じている	
<p>←Osh</p>  <p>Isfana→</p>	写真番号	9		
	径間番号	1		
	部材名称	A2橋台		
	部材番号	—		
	損傷発生位置	—		
メモ			主桁と台座コンクリートの位置がずれている	

②道路構造物の現況写真と損傷状況

距離標	35km +	883.08	路線名	Osh-Batken-Isfana道路
←Osh			Isfana→	写真番号 10
			1	1
			部材名称	A1側袖擁壁
			部材番号	—
			損傷発生位置	下流側
				メモ
				袖擁壁が倒れかかっている
			写真番号	11
			径間番号	1
			部材名称	A1橋台
			部材番号	—
		損傷発生位置	基礎	
				メモ
				流水の影響により先堀が生じている
			写真番号	12
			径間番号	
			部材名称	
			部材番号	
		損傷発生位置		
				メモ

③河川の現況写真と損傷状況

距離標	35km	+	883.08	路線名	Osh-Batken-Isfana道路
	写真番号	1			
	径間番号	—			
	部材名称	—			
	部材番号	—			
	損傷発生位置	—			
メモ					
<p>上流側は、雪解け洪水の流下断面を確保するため、河道中央を毎年浚渫している。</p> <p>2000年の洪水で旧橋は流下物で閉塞し流失した。道路は冠水越流した。湛水深は警察署の土台まで来た。</p> <p>架け替え後は、4月～6月に水位は上昇するがスムーズな流下状況である。</p>					
	写真番号	2			
	径間番号	—			
	部材名称	—			
	部材番号	—			
	損傷発生位置	—			
メモ					
<p>下流側の左岸に建物があり、橋梁から建物までの河岸が広がっている。建物箇所は狭窄部になっている。</p> <p>右岸はやや低いが建物敷地である。河道の流下能力を確保するための浚渫土砂は右岸に積み上げられている。</p>					
	写真番号	3			
	径間番号	—			
	部材名称	—			
	部材番号	—			
	う	え			
メモ					
<p>旧橋橋台は現橋の上流側に残されており基礎が浮いている。また、取付護岸が河道に突出して流水阻害になっており、撤去が必要。</p>					



写真番号	4
径間番号	—
部材名称	—
部材番号	—
損傷発生位置	—

メモ

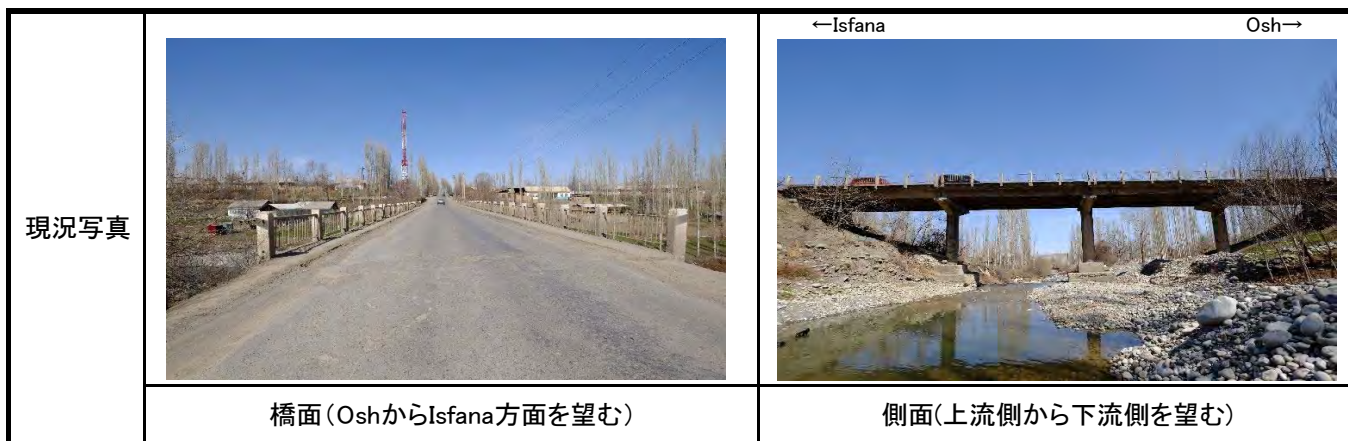
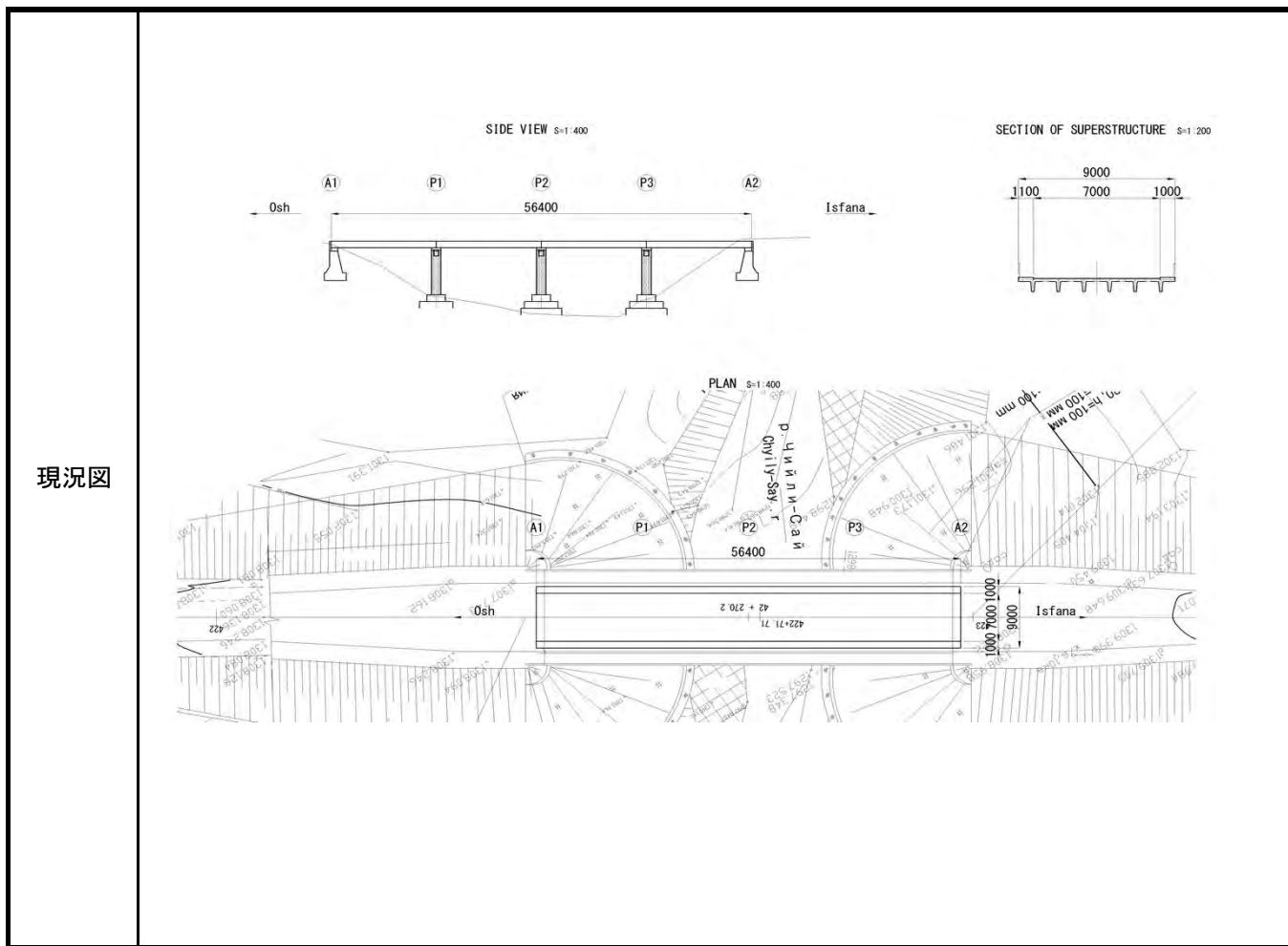
現橋の右岸橋台直下流の取付護岸は基礎が洗掘され、河道に突出して流水阻害になっており、撤去、撤去新設が必要。

①道路構造物諸元




構造物名	橋梁	路線名	Osh-Batken-Isfana道路			管轄	オシ道路管理局
所在地		距離標	42km	+	271.71		DEP37

供用開始	1969年(築45年)	活荷重	60 ton
橋長又は支間長	56.4m(実測)	上部工形式	4径間単純RCT桁橋
下部工形式	橋台:逆T式橋台 橋脚:円柱式橋脚(梁有)		
基礎工形式	橋台:不明		
舗装種別	アスファルト舗装	橋梁建造元	USSR

幅員構成(実測)	総幅員	9.00m	地覆	歩道	車道	車道	歩道	地覆
			0.00m	1.00m	3.50m	3.50m	1.00m	0.00m




②道路構造物の現況写真と損傷状況

距離標	42km	+	271.71	路線名	Osh-Batken-Isfana道路	
	写真番号	1	径間番号	—	部材名称	—
	部材番号	—	損傷発生位置	—	メモ	
	橋面 (IsfanaからOsh方面を望む)					
	←Osh					
	Isfana→					
	A1 P1 P2 P3 A2					
	写真番号	2	径間番号	—	部材名称	—
	部材番号	—	損傷発生位置	—	メモ	
	側面 (下流側から上流側を望む)					
	←Osh					
	Isfana→					
	A1 P1 P2 P3 A2					
	写真番号	3	径間番号	—	部材名称	高欄
	部材番号	—	損傷発生位置	上流側	メモ	
	高欄が変形、傾斜している					
	←Osh					
	Isfana→					
	A1 P1 P2 P3 A2					




②道路構造物の現況写真と損傷状況

距離標	42km + 271.71	路線名	Osh-Batken-Isfana道路														
←Osh		Isfana→	<table border="1"> <tr><td>写真番号</td><td>4</td></tr> <tr><td>径間番号</td><td>1,2</td></tr> <tr><td>部材名称</td><td>橋面</td></tr> <tr><td>部材番号</td><td>—</td></tr> <tr><td>損傷発生位置</td><td>P1橋脚支点上</td></tr> <tr><td colspan="2">メモ</td></tr> <tr><td colspan="2">橋脚掛違い部 路面の凹凸や舗装ひびわれが生じている (上流側を望む)</td></tr> </table>	写真番号	4	径間番号	1,2	部材名称	橋面	部材番号	—	損傷発生位置	P1橋脚支点上	メモ		橋脚掛違い部 路面の凹凸や舗装ひびわれが生じている (上流側を望む)	
写真番号	4																
径間番号	1,2																
部材名称	橋面																
部材番号	—																
損傷発生位置	P1橋脚支点上																
メモ																	
橋脚掛違い部 路面の凹凸や舗装ひびわれが生じている (上流側を望む)																	
																	
←Osh		Isfana→	<table border="1"> <tr><td>写真番号</td><td>5</td></tr> <tr><td>径間番号</td><td>1</td></tr> <tr><td>部材名称</td><td>主桁</td></tr> <tr><td>部材番号</td><td>—</td></tr> <tr><td>損傷発生位置</td><td>G6桁</td></tr> <tr><td colspan="2">メモ</td></tr> <tr><td colspan="2">凍結融解の影響により、剥離・鉄筋露出が生じている 地覆が無いため歩道からの漏水により、遊離石灰が生じている</td></tr> </table>	写真番号	5	径間番号	1	部材名称	主桁	部材番号	—	損傷発生位置	G6桁	メモ		凍結融解の影響により、剥離・鉄筋露出が生じている 地覆が無いため歩道からの漏水により、遊離石灰が生じている	
写真番号	5																
径間番号	1																
部材名称	主桁																
部材番号	—																
損傷発生位置	G6桁																
メモ																	
凍結融解の影響により、剥離・鉄筋露出が生じている 地覆が無いため歩道からの漏水により、遊離石灰が生じている																	
																	
G3	G2	G1	<table border="1"> <tr><td>写真番号</td><td>6</td></tr> <tr><td>径間番号</td><td>1</td></tr> <tr><td>部材名称</td><td>主桁</td></tr> <tr><td>部材番号</td><td>—</td></tr> <tr><td>損傷発生位置</td><td>横桁・張出し床板</td></tr> <tr><td colspan="2">メモ</td></tr> <tr><td colspan="2">横桁の連結が破断し機能していない 凍結融解の影響により、剥離・鉄筋露出が生じている</td></tr> </table>	写真番号	6	径間番号	1	部材名称	主桁	部材番号	—	損傷発生位置	横桁・張出し床板	メモ		横桁の連結が破断し機能していない 凍結融解の影響により、剥離・鉄筋露出が生じている	
写真番号	6																
径間番号	1																
部材名称	主桁																
部材番号	—																
損傷発生位置	横桁・張出し床板																
メモ																	
横桁の連結が破断し機能していない 凍結融解の影響により、剥離・鉄筋露出が生じている																	
																	



②道路構造物の現況写真と損傷状況

距離標		42km + 271.71		路線名	Osh-Batken-Isfana道路	
P1				P2	写真番号	7
					径間番号	2
					部材名称	上部工
					部材番号	—
					損傷発生位置	P1~P2
					メモ	
					写真番号	8
					径間番号	4
					部材名称	上部工
					部材番号	—
					損傷発生位置	P3~A2間
メモ		主桁間の隙間からの漏水により、遊離石灰、剥離・鉄筋露出が生じている				
					写真番号	9
					径間番号	1
					部材名称	A1橋台
					部材番号	—
					損傷発生位置	豎壁
メモ		豎壁コンクリートが剥落している				
←下流側				上流側→		




②道路構造物の現況写真と損傷状況

距離標	42km + 271.71	路線名	Osh-Batken-Isfana道路
	写真番号	10	
	径間番号	3,4	
	部材名称	P3橋脚	
	部材番号	—	
	損傷発生位置	全体	
メモ			
凍害によりスケーリングが生じている (他の下部工も同様)			
	写真番号	11	
	径間番号	3,4	
	部材名称	P3橋脚	
	部材番号	—	
	損傷発生位置	基礎	
メモ			
流水の影響により先堀が生じている			
	写真番号	12	
	径間番号	3	
	部材名称	A2橋台	
	部材番号	—	
	損傷発生位置	背面処理	
メモ			
橋台背面の処理が崩壊している			

③河川の現況写真と損傷状況

距離標	42km	+	270.20	路線名	Osh-Batken-Isfana道路						
	写真番号	1	径間番号	—	部材名称	—	部材番号	—	損傷発生位置	—	
	メモ										
	<p>上流側を見る。河道は堆積した土砂が浚渫され、雪解け水の受け入れ準備がされている。</p> <p>河道幅は下流より広く、右岸は養蜂場所、左岸は畑地になっている。</p>										
		径間番号	2	部材名称	—	部材番号	—	損傷発生位置	—		
		メモ									
<p>下流側を見る。河道は土砂の堆積が少なく、幅は上流より狭く安定している。</p> <p>橋梁地点で従来の河道は狭められたため、上流側に土砂が堆積し流量も制御された状態となっている。</p>											
		写真番号	3	径間番号	—	部材名称	—	部材番号	—	損傷発生位置	—
		メモ									
	<p>架橋地点で河道に落差が生じており、下流の河床は2m程度低い。落差のため洪水時は流速が速くなるので下流に水叩き工が必要である。</p> <p>橋脚基礎周辺はRCで2段に補強されているが、洪水流下の抵抗となり、水位上昇の原因となりスムーズな流下の妨げになる。</p> <p>橋台部分が法面であるため、洪水により侵食されている。左岸橋台と橋脚の間の空間が狭く(基準径間長を満たしていない)見直す必要がある。</p>										

③河川の現況写真と損傷状況

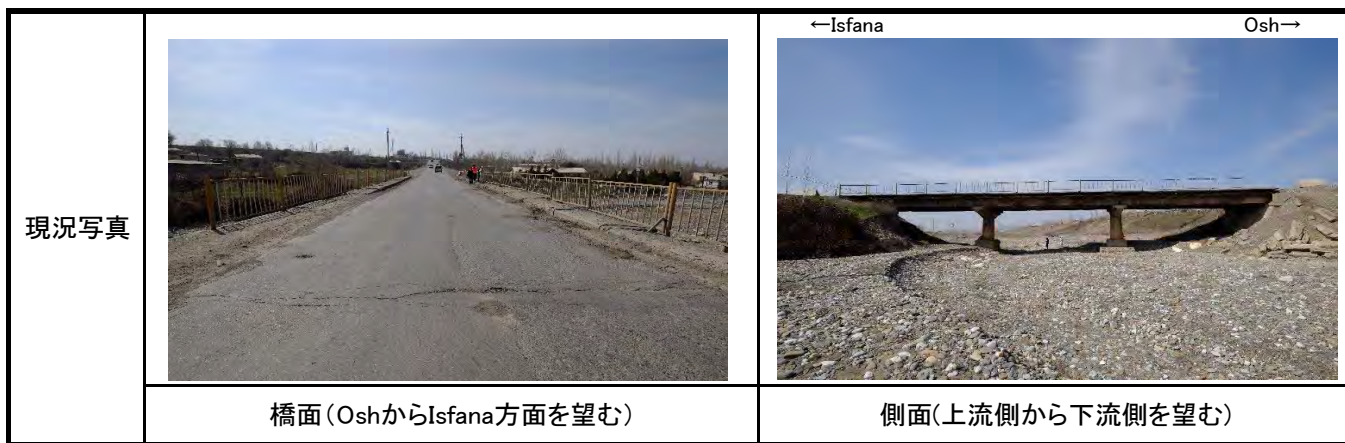
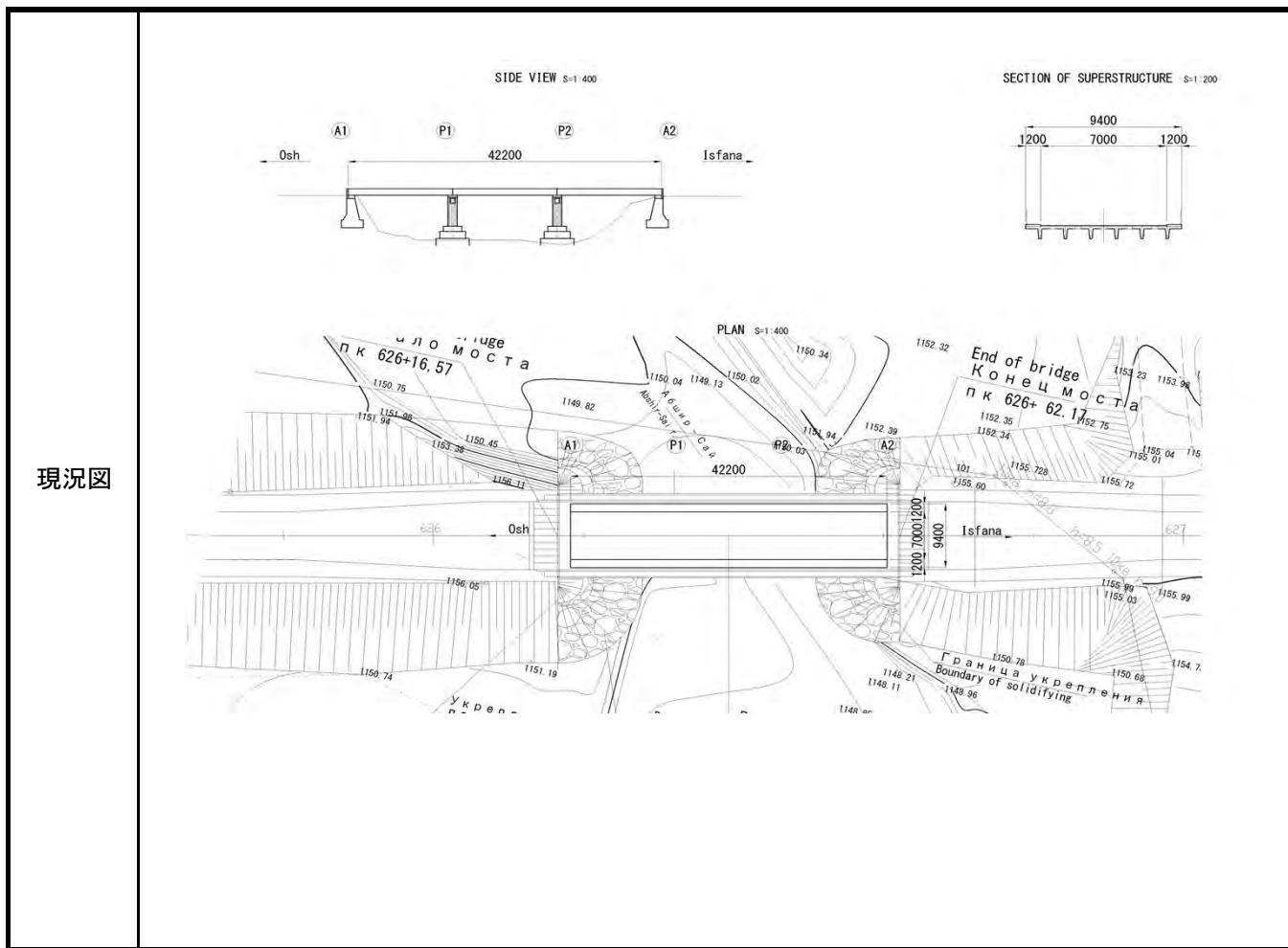
距離標	53km	+	674.00	路線名	Osh-Batken-Isfana道路
	写真番号	1			
	径間番号	—			
	部材名称	—			
	部材番号	—			
	損傷発生位置	—			
	メモ				
<p>上流側を見る。道路盛り土沿いに流下する河川の幅は一定で、下流に比べ狭く河岸侵食も少ない。 自然河川であり、道路側の水衝部は侵食されやすくHWLまでの被覆工の設置が望ましい。 流量を調節する穴あきゲートがボックスカルバートの上流に設置されている。</p>					
	写真番号	2			
	径間番号	—			
	部材名称	—			
	部材番号	—			
	損傷発生位置	—			
	メモ				
<p>下流側を見る。上流の河道幅より広くなっており河床は低くなっている。、自然植生の法面は河川の侵食を受けやすく、直下流の山裾や道路側が河岸侵食されている区間がある。道路側に法面被覆の護岸設置が望まれる。</p>					
	写真番号	3			
	径間番号	—			
	部材名称	—			
	部材番号	—			
	損傷発生位置	—			
	メモ				
<p>下流側のボックスカルバートの周辺は侵食されており、特に河床は大きく洗掘され、吐き口部は宙に浮いている。 吐き口からの洪水落下により、さらに河床低下が進行する可能性が高い。 簡易な補修としては、カルバートを残し呑み口下流に水叩き工を設置する補修があるが浸食対策は不十分のままになる。 橋梁新設により洪水のスムーズな流れを確保し安定させれば、河岸侵食を安定化することが出来、長期的に有利である。</p>					

①道路構造物諸元




構造物名	橋梁	路線名	Osh-Batken-Isfana道路			管轄	オシユ道路管理局
所在地		距離標	62km	+	639.37		DEP37

供用開始	1960年(築54年)	活荷重	80 ton
橋長又は支間長	42.2m(実測)	上部工形式	3径間単純RCT桁橋
下部工形式	橋台:逆T式橋台 橋脚:円柱式橋脚(梁有)		
基礎工形式	橋台:不明		
舗装種別	アスファルト舗装	橋梁建造元	USSR




幅員構成(実測)	総幅員	9.40m	地覆	歩道	車道	車道	歩道	地覆
			0.00m	1.20m	3.50m	3.50m	1.20m	0.00m



②道路構造物の現況写真と損傷状況

距離標	62km + 639.37	路線名	Osh-Batken-Isfana道路
	写真番号	1	
	径間番号	—	
	部材名称	—	
	部材番号	—	
	損傷発生位置	—	
	メモ		
橋面 (IsfanaからOsh方面を望む)			
←Osh		Isfana→	
A1		写真番号	2
P1		径間番号	—
P2		部材名称	—
A2		部材番号	—
		損傷発生位置	—
メモ			
側面 (下流側から上流側を望む)			
	写真番号	3	
	径間番号	2,3	
	部材名称	橋面	
	部材番号	—	
	損傷発生位置	P2支点上	
メモ			
舗装が陥没している			

②道路構造物の現況写真と損傷状況

距離標	62km + 639.37	路線名	Osh-Batken-Isfana道路	
	写真番号	4		
	径間番号	2		
	部材名称	歩道		
	部材番号	—		
	損傷発生位置	下流側(P1~P2)		
メモ				
歩道が脱落している				
←Osh		Isfana→	写真番号	5
		径間番号	1	
		部材名称	舗装	
		部材番号	—	
		損傷発生位置	A1橋台支点上	
メモ				
橋台遊間部 路面の凹凸や舗装ひびわれが生じている				
	写真番号	6		
	径間番号	1		
	部材名称	主桁		
	部材番号	G6桁		
	損傷発生位置	下面・張出床板		
メモ				
凍結融解の影響により、剥離・鉄筋露出が生じている				


②道路構造物の現況写真と損傷状況

距離標	62km + 639.37	路線名	Osh-Batken-Isfana道路
	写真番号	7	
	径間番号	1	
	部材名称	主桁	
	部材番号	G6桁	
	損傷発生位置	下面・張出床板	
	メモ		写真番号6を上面から望む
	写真番号	8	
	径間番号	2	
	部材名称	上部工	
	部材番号		
	損傷発生位置	P1~P2間	
メモ		主桁間の隙間からの漏水により、遊離石灰が生じている	
	写真番号	9	
	径間番号	3	
	部材名称	上部工	
	部材番号	—	
	損傷発生位置	P2~A2	
メモ		凍結融解の影響により、剥離・鉄筋露出が生じている(G1桁) 横桁に剥離・鉄筋露出が生じている	

②道路構造物の現況写真と損傷状況

距離標	62km + 639.37	路線名	Osh-Batken-Isfana道路
←Osh		Isfana→	
	写真番号	10	
	径間番号	1	
	部材名称	A1橋台	
	部材番号	—	
	損傷発生位置	豎壁	
メモ			
剥離・鉄筋露出が生じている 橋台背面の処理が崩壊している			
	写真番号	11	
	径間番号	2,3	
	部材名称	P2橋脚	
	部材番号	—	
	損傷発生位置	梁付け根	
メモ			
梁下面に剥離・鉄筋露出が生じている			
	写真番号	12	
	径間番号	3	
	部材名称	A2橋台	
	部材番号	—	
	損傷発生位置	背面	
メモ			
橋台背面の処理が崩壊している			

②道路構造物の現況写真と損傷状況

距離標	62km + 639.37	路線名	Osh-Batken-Isfana道路	
	写真番号	13		
	径間番号	1		
	部材名称	A2橋台		
	部材番号	—		
	損傷発生位置	上流側		
	メモ			
	橋座面に土砂が堆積している 橋座幅60cm			
	写真番号	14		
	径間番号			
	部材名称			
	部材番号			
	損傷発生位置			
	メモ			
	写真番号	15		
	径間番号			
	部材名称			
	部材番号			
	損傷発生位置			
	メモ			

③河川の現況写真と損傷状況

距離標	62km	+	639.37	路線名	Osh-Batken-Isfana道路
	写真番号	1			
	径間番号	—			
	部材名称	—			
	部材番号	—			
	損傷発生位置	—			
	メモ				
<p>上流方向を見る。現状では流水がなく、ドライ状態である。5月～6月に雪解け水が流下し水位は上昇するが流量が少なくなる7月以降はドライ状態となる。</p>					
	写真番号	2			
	径間番号	—			
	部材名称	—			
	部材番号	—			
	損傷発生位置	—			
	メモ				
<p>下流方向を見る。現状では流水がなく、ドライ状態である。下流はアースダムにより堰き止められている。雪解け水は、ダム湖に流入し湛水する状態となるため、橋梁地点での流量は限定的であり、流速は遅い。過去の湛水位は低く、架橋計画においては、現状の橋長や桁下高さを下回らないように計画すればよい。</p>					
	写真番号	3			
	径間番号	—			
	部材名称	—			
	部材番号	—			
	損傷発生位置	—			
	メモ				
<p>河道内から下流方向を見る。橋脚の基礎部は洗掘されていないが、両橋台前面は盛り土構造のため、被覆が崩壊している。流水により崩壊したものとは考えにくい。橋台周辺の道路盛り土部分の被覆はHWL(湛水位)まで保護する必要がある。</p>					



写真番号	4
径間番号	—
部材名称	—
部材番号	—
損傷発生位置	—


メモ

下流のダム地点。右が橋梁方向、
左の河道は広い

キルギス国 国際幹線道路改善事業 排水横断構造物調書

28+285	コンクリートパイプΦ0.80m L=10.9m
	整備幅員より短いので交換
呑み口側	
吐け口側	

29+471	コンクリートパイプΦ1.50m+Φ0.60+Φ1.00+鋼管Φ0.50	
	自然流路河床面に鋼管パイプがあり、用水の渡しはサイホンに交換	
呑み口側		
		
吐け口側		
		

29+924	コンクリートパイプΦ1.0m 用水路
	水路高の変更不可、横断構造物の形式要検討
呑み口側	
上流側の用水路	
吐け口側	
下流側の用水路、 用水路橋に接続	

29+981	カルバートボックス 2.00m×2.00m L=27.4 m
	路面をオーバーフローした形跡有り、上流河川断面に合わせてボックス交換
呑み口側	
上流側河川	

29+981	カルバートボックス 2.00m×2.00m L=27.4 m
	路面をオーバーフローした形跡有り、上流河川断面に合わせてボックス交換
呑み口側 内空状況	
吐け口側	

30+572	コンクリートパイプΦ0.85m L=10.4m
	ほとんど土砂で埋まっている、整備幅員より短いので交換
呑み口側	
吐け口側	

30+774	鋼管Φ0.90m + コンクリートパイプΦ0.70m L=12.0m
	鋼管部は土被り無し、吐け口側はほとんど土砂で埋まっている、
呑み口側	
吐け口側	

30+972	コンクリートパイプΦ0.80m + Φ1.00m L=18.0m
	統一した断面に入れ替える、
呑み口側	
吐け口側	

31+407	コンクリートパイプΦ0.75m L=10.8m
	整備幅員より短いので交換、
呑み口側	
吐け口側	

31+744	コンクリートパイプΦ1.0m+カルバートボックス 1.5m×1.0m L=18.0m
	土砂で埋まっており、必要断面に入れ替える、
<p>呑み口側 呑み口側に水道管があるが、現在は使用されていない</p>	
<p>吐き口側</p>	